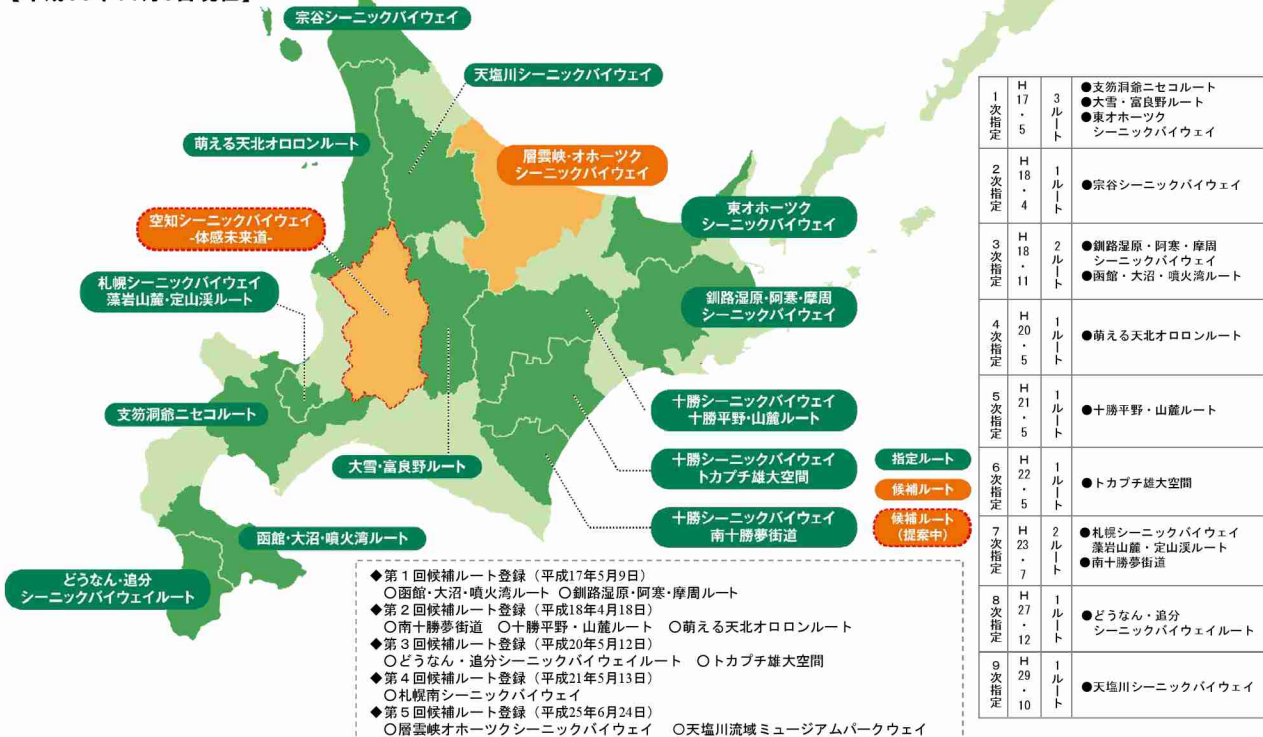


シーニックバイウェイ北海道の提案ルート

資料2-1

【平成30年11月5日現在】



ルート名称	代表者名	代表者の所属	構成団体数	関係市町村数
空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	工藤 克彦 くどう かつひこ	NPO法人日本一直線道 まちづくり研究会 理事長	15	24

シーニックバイウエイルート提案書

平成 30 年 7 月 1 7 日

シーニックバイウエイ北海道推進協議会長 殿

空知シーニックバイウエイ
 ルート運営代表者会議
 代表 工藤 克彦 印

以下のとおり、シーニックバイウエイルートの提案を行います。

記

代表者名	工藤 克彦	
代表者の所属	NPO 法人日本一直線道まちづくり研究会	
代表者の住所	空知郡奈井江町字奈井江 171-34	
代表者の連絡先	電話 0125-65-5085	F A X 0125-65-5085
担当者名*	川田 孝志	
担当者の所属*	一般社団法人 空知建設業協会	
担当者の住所*	〒068-0028 北海道岩見沢市 8 条西 3 丁目 1-2	
担当者の連絡先*	電話 0126-23-1836	F A X 0126-25-2459
ルート名	空知シーニックバイウエイ-体感未来道-	
構成団体数	1 5 団体	
関係市町村名	沼田町、秩父別町、深川市、妹背牛町、滝川市、赤平市、歌志内市、上砂川町、 <small>※ルート運営活動計画とは別に、基幹となるルートが明示された参考図(様式1-2)を添付してください。</small> 奈井江町、芦別市、美瑛市、三笠市、夕張市、由仁町、長沼町、南幌町、栗山町、 岩見沢市、月形町、浦臼町、砂川市、新十津川町、雨竜町、北竜町 計 (2 4) 市町村	
提案の種類	<input type="checkbox"/> シーニックバイウエイルート	<input checked="" type="checkbox"/> シーニックバイウエイ候補ルート
必要書類	<input type="checkbox"/> ルート運営活動計画 <input type="checkbox"/> 関係市町村長の意見 <input type="checkbox"/> 候補ルート登録時における付帯意見の対応表	<input checked="" type="checkbox"/> ルート運営活動計画の骨子
備考		

※代表者以外が連絡窓口となる場合には、担当者名の氏名・住所・連絡先もご記入ください。

以上



空知シーニックバイウェイ-体感未来道- ルート運営活動計画骨子



空知シーニックバイウェイ ルート運営代表者会議

未来の空知を想う。

空知地域は、エネルギー産業の合理化に伴う人口減少や少子高齢化問題、教育環境に伴う諸問題など、いまの日本が抱える様々な課題を、象徴しているかのようなイメージを持つ人が多いだろう。

現に、空知管内の人口は1960年のピークから現在に至るまで50万人以上もの人口が減少しており、今もおお減少の一途をたどっている。また、日本にある791市の人口順位では、空知管内の市がワースト4（歌志内市、夕張市、三笠市、赤平市）を占めており、学校の統合や閉校、地域イベントの縮小や中止、その他施設の廃止など、我々が幼少期に積み重ねることができた経験や教育を、今の子供たちにはさせてあげられない状況となりつつある。よくも悪くも、経済政策による地方の急速な成長と退行に、今もお悩まされている地域といっても過言ではない。

しかし、時代とともに地域の姿が移り変わることは、決して悲観的のみ受け取られるべきことではない。当たり前なことだが、未来は、過去の経験から方向づけられるものであり、“これまで何を経て、何を感じ、何が残されてきたのか”そして“これから何を伝え、新たに何をやるのか”により決まる。

実に、空知管内におけるシーニックバイウェイは、10年以上もの歳月をかけ、立ち上げまでたどり着くことができた。ここに至って想うことは、我々の空知シーニックバイウェイは決して後発でも、遅すぎたわけでもない。時代の様々な変化により、あまりにも“感じさせられること”が多く、ただただ時の流れを見るしかなかった時代のなかで、大切な空知を想い“どうにかしたいと想う人々”が少しずつ増えてきた結果が、10年以上の歳月をかけて至った今であると確信している。

北海道シーニックバイウェイの行く末の本質は、地方市町の“自立と共生共育”であり、様々な活動を通じて“空知人”を増やしていくことが何よりも大切なことであり、この期間は、そこに至るまでの空知シーニックバイウェイの活動そのものであったと、我々は胸を張るべきである。

高度経済成長期の空知と今を比較すると、確かに、今の子供たちに対して我々がしてあげられることは少なくなりつつあり、親の収入差によって子供の学力に格差が生じると言われるように、地域格差によっても学力の差が生じているのかもしれない。豊かな人生を問うと「経験」と答える人も多くいるかもしれないが、いま地方に育つ子供たちに、どれほどの「経験」をさせてあげることが出来るのか。

そんな時だからこそ、未来の空知を想い、自立のための共生共育を図るためにも、今に至るまでの空知を再度見つめなおし、空知の宝が何であり、伝えるべきことは、新たに作るべきものは何なのかを見定め、広域的でかつ持続可能な空知人を増やす空知プロデュースをしていかななくてはならないと、我々は感じている。

激しい時代の移り変わりを生きた我々は、豊富な歴史と豊かな土壌、豊かな仲間がもっともっと多いことを知らなければならぬ。そしてなにより、我々が立っている大地には市町の境界線は存在せず、ひとつの空で繋がっていることを。未来の空知を想う我々は、空知の景観や地域、観光を五感で知り、これまでと変わらない空知の空を、未来を担うべき人知ってもらふ努力をし続けたい。故に、我々の活動は「空知ing」という名のもとに仲間のパイを増やす活動である。

空知シーニックバイウェイ「体感未来道」

ルート運営代表者会議 一同

目次

1. ルートのエリア及び概要	1
1.1. ルート概要	1
1.2. ルートの地理的範囲と自治体別の主な通過国道（10市14町）	1
1.3. メインルート①の詳細（以下 空知管内に関わる詳細情報）	3
1.4. メインルート②の詳細（以下 空知管内に関わる詳細情報）	4
1.5. サブルートの特徴	4
2. ルート愛称とテーマ	5
2.1. ルートの名称	5
2.2. ルートテーマ	6
2.3. 活動キャッチフレーズ	6
3. ルートの資源と課題	7
3.1. ルートの特性	7
3.2. ルートの課題	10
4. ルートの活動体制及び方針・内容	11
4.1. ルート活動体制	11
4.2. 活動目標と内容	12
5. ルートの活動団体	13
6. ルートの活動計画（案）	17
6.1. 候補ルート申請に向けた活動経過	17
6.2. 今後の活動（案）	18
7. 候補ルート登録後の指定ルートの申請に向けて	19
8. 写真引用先一覧	20

1. ルートのエリア及び概要

1.1. ルート概要

空知地域は、北海道第一第二の都市である札幌・旭川を結び、日本一長い直線道路である国道12号が南北を貫く。また日本でも有数の流域面積・長さを誇り北海道遺産にも指定されている石狩川を有する地域である。明治初期から国のエネルギー産業を支える石炭を産出し、重要な役割を担ってきた「旧産炭地」として知られる。エネルギー政策の転換により、炭鉱は閉山を余儀なくされたものの、立坑などの産業遺産を「価値ある歴史」と捉えた活動が現在も行われている。

開拓以来、石狩川と共に整備されてきた、全道の約10%を占める耕地面積、道内一の水田面積を有する地域であり、農業生産基地としての役割が期待されている。また、近年ではワインや農産加工品の生産地域としても認知され、多面的な食農産業が広がっている。

この地域の特色として、開拓や炭鉱の歴史に根差した、革や木、食品加工や機械部品、インフラ整備などといったモノづくりを主体とした中小企業が多くあることから、空知は先の食農産業とモノづくりを中心とした、中小企業を支える地域であるといえる。

1.2. ルートの地理的範囲と自治体別の主な通過国道（10市14町）

	夕張市 8,843人 国道:R274/R452		岩見沢市 84,499人 国道:R12/R234		美瑛市 23,035人 国道:R12
	芦別市 14,676人 国道:R38/R452		赤平市 11,105人 国道:R38		三笠市 9,076人 国道:R12/R452
	滝川市 41,192人 国道:R12/R38/R451		砂川市 17,694人 国道:R12		歌志内市 3,585人 道道114/115
	深川市 21,909人 国道:R12/R233/R275		南幌町 7,927人 国道:R337		奈井江町 5,674人 国道:R12
	上砂川町 3,479人 道道114・115		由仁町 5,314人 国道:R234/R274		長沼町 11,076人 国道:R274/R337
	栗山町 12,344人 国道:R234/R274		月形町 4,577人 国道:R275		浦臼町 1,985人 国道:R275
	新十津川町 6,831人 国道:R275/R451		妹背牛町 3,091人 道道47/94		秩父別町 2,513人 国道:R233
	雨竜町 2,749人 国道:R275		北竜町 1,981人 国道:R233/R275		沼田町 3,181人 国道:R275

※人口は2015年（平成27年）国勢調査より

1.3.メインルートの特徴

空知シーニックバイウェイでは、管内を巡る特徴ある国道をメインルートとするとともに、南北を縦断する道央自動車道、さらに、石狩川、空知川の2つの河川をメインルートとして活動を展開する。

1.3. メインルート① (3頁)

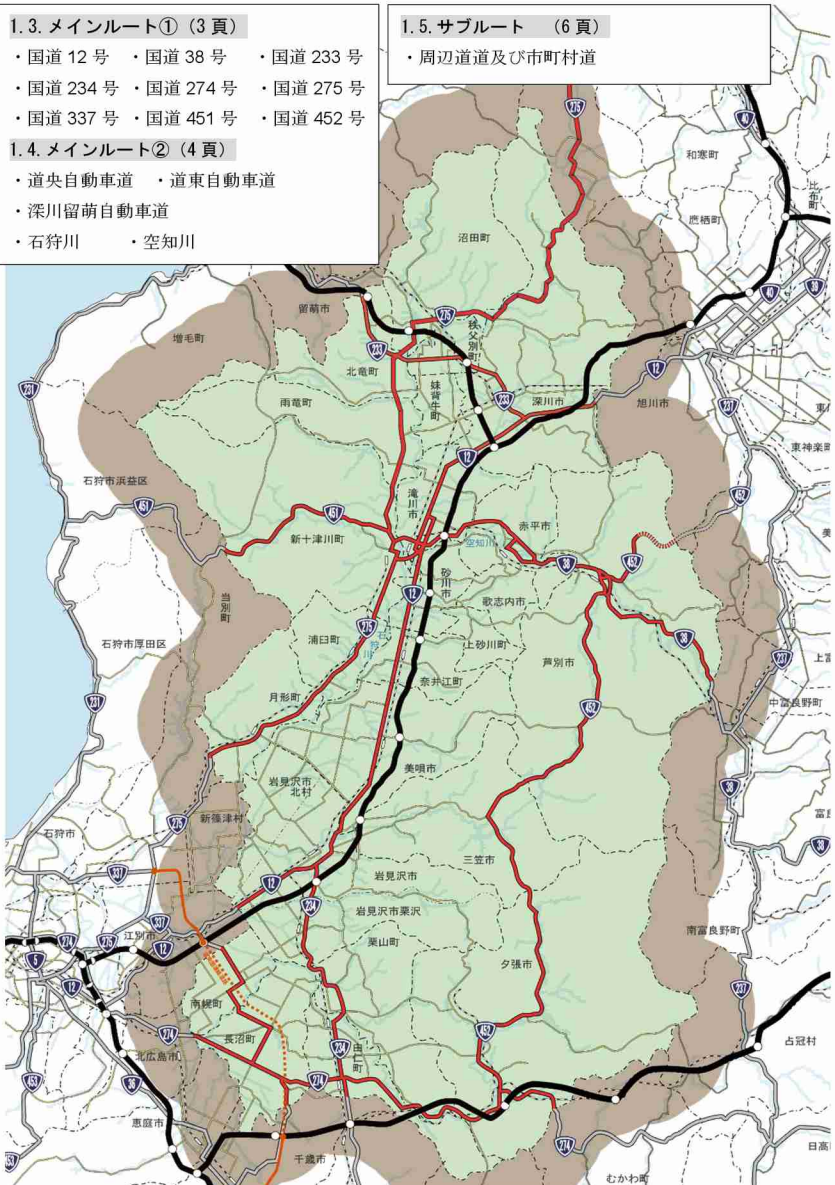
- ・国道 12 号 ・国道 38 号 ・国道 233 号
- ・国道 234 号 ・国道 274 号 ・国道 275 号
- ・国道 337 号 ・国道 451 号 ・国道 452 号

1.4. メインルート② (4頁)

- ・道央自動車道 ・道東自動車道
- ・深川留萌自動車道
- ・石狩川 ・空知川

1.5. サブルート (6頁)

- ・周辺道道及び市町村道



1.4.メインルート①の詳細（以下 空知管内に関わる詳細情報）

国道 12 号	特 徴	空知を代表する中央国道（直線道路日本一 29.2km）		
	起 終 点	札幌市（中央区）～旭川市	現道延長	145.2km
	通過市町	岩見沢市、三笠市、美瑛市、奈井江市、砂川市、滝川市、深川市		
	道 の 駅	サンファーム三笠、ハウスヤルビ奈井江、たきかわ、ライスランドふかがわ		
国道 38 号	特 徴	炭鉱文化を感じる道		
	起 終 点	滝川市～釧路市	現道延長	297.1km
	通過市町	滝川市、赤平市、芦別市		
	道 の 駅	スタープラザ芦別		
国道 233 号	特 徴	日本海へ続く道（深川留萌自動車道が並行）		
	起 終 点	旭川市～留萌市	現道延長	55.3km
	通過市町	深川市、秩父別町、北竜町		
	道 の 駅	ライスランドふかがわ、鐘のなるまち・ちっぷべつ		
国道 234 号	特 徴	空知ウェルカムゲート/産業の道/アクセスロード（道東自動車道との接続）		
	起 終 点	岩見沢市～苫小牧市	現道延長	69.5km
	通過市町	岩見沢市、栗山町、由仁町、（勇払郡安平町、苫小牧市）		
	道 の 駅	－		
国道 274 号	特 徴	三川国道/石狩平野から夕張山地へ向かう道（道東自動車道との接続）		
	起 終 点	札幌市（東区）～釧路（川上群標茶町）	現道延長	316.0km
	通過市町	長沼町、由仁町、栗山町、夕張市		
	道 の 駅	マオイの丘公園、夕張メロード		
国道 275 号	特 徴	田園風景と樺戸連山、阿蘇岩山と夕日のコントラストが綺麗な道		
	起 終 点	札幌市（中央区）～稚内（枝幸郡浜頓別町）	現道延長	281.0km
	通過市町	月形町、浦臼町、新十津川町、雨竜町、北竜町、沼田町、深川市		
	道 の 駅	つるぬま、田園の里うりゅう、サンフラワー北竜		
国道 337 号	特 徴	物流の道/石狩湾、新千歳空港、苫小牧港を結ぶ道央国道/道央圏連絡道路		
	起 終 点	千歳市～小樽市（国道 274 号と一部重複）	現道延長	84.1km
	通過市町	長沼町、南幌町		
	道 の 駅	サーモンパーク千歳、マオイの丘公園（国道 274 号と重複）		
国道 451 号	特 徴	署寒国道		
	起 終 点	留萌市～滝川市（国道 275 号と一部重複）		
	通過市町	新十津川町、滝川市	現道延長	54.9km
	道 の 駅	－		
国道 452 号	特 徴	夕張国道/山道/夜空の美しい道		
	起 終 点	夕張市～旭川市（一部未開通）	現道延長	110.1km
	通過市町	夕張市、三笠市、芦別市		
	道 の 駅	－		

1.4.メインルート②の詳細（以下 空知管内に関わる詳細情報）

道央自動車道	特 徴	石狩平野を見渡すことが可能/ブドウ畑/深川留萌自動車道へのアクセス		
	起 終 点	大沼公園 IC～国道 12 号と並行～士別剣淵 IC	総延長	697.0km
	通過 IC	岩見沢 IC、三笠 IC、美唄 IC、奈井江砂川 IC、砂川 SA、滝川 IC、深川 IC		
道東自動車道	特 徴	北海道東西軸物流の要/日本海から太平洋		
	起 終 点	千歳恵庭 JCT～足寄 IC	総延長	258.0km
	通過 IC	夕張 IC		
深川留萌自動車道	特 徴	田園風景を見渡しながら雄大な景観を楽しむ道		
	起 終 点	深川 JCT～留萌大和田 IC	総延長	49.0km
	通過 IC	深川西 IC、秩父別 IC、沼田 IC、北竜ひまわり IC、留萌幌糠 IC、留萌大和田 IC		
石狩川	特 徴	北海道の母なる川（流域面積：全国 2 位、河川延長：全国 3 位）		
	主な活動	サイクルツーリズムモデルルート（石狩川流域圏ルート）		
		河川協力団体 ・滝川市（NPO 法人 まち・川づくりサポートセンター） ・砂川市（石狩川下糧会）		
空知川	特 徴	田園の命の川（北海幹線用水路の取水河川）		
	主な活動	河川協力団体 ・赤平市（赤平ラブ・リバー推進協会）		

1.5.サブルートの特徴

サブルートの特徴は、樺戸道路のように北海道の開拓の基盤となった道道があるほか、全道第 1 位農業算出額を誇る米や全道第 2 位の果実など空知農業を支える魅力ある広域農道（及び市町村道）がある。これらサブルートは、道路を利用したサイクルイベントや田園風景を活かした景観イベントなど空知の歴史や文化、及び景観資源の魅力を伝えるうえで重要な要素である。*空知総合振興局の農業 2011 より



日本一の直線道路 国道 12 号



秩父別ローズガーデン



夕張シューパーダム



石狩川

2. ルート愛称とテーマ

2.1. ルートの名称

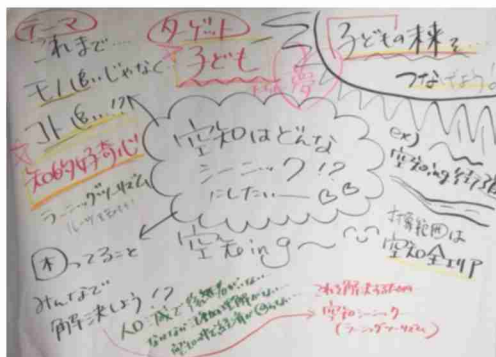
我々が空知のシーニックバイウェイを考えたとき、みんなの共通の想いとして、北海道に素晴らしい「空知（そらち）地域」があることを知ってもらいたい。そして、北海道の発展を支えた空知地域だからこのシーニックバイウェイを展開したい。そのために、いつも心に持ち活動していく重要なキーワードとして「歴史や成り立ち（ルーツを大切に）、現地に来て見て美しく感じる」、「子どもの未来を繋げよう」、「知的的好奇心」、「生活観光」との4つが挙げられた。

ルート名称は、この想いを込め、「空知シーニックバイウェイ 一体感未来道」とする。

Key Words

「歴史や成り立ち（ルーツを大切に）、現地に来て見て美しく感じる」

「子どもの未来を繋げよう」 「知的的好奇心」 「生活観光」



空知シーニックバイウェイ 一体感未来道-

[英語名 : Sorachi Scenic Byway]

炭鉱とともに繁栄してきた空知地域には、有形・無形の多くの炭鉱遺産がある。また、北海道有数の田園地帯で、ワインの生産も盛んな地域であり、美しい自然景観や芸術、独自の食文化など様々な地域資源が広域に点在している。この各地域にある“資源”をより魅力あるものとするためには、地域と地域が連携し、地域全体で魅力を発信することで、空知を多くの人に知ってもらうことにつながると考える。ルート特性を生かした「体験型観光」として、空知の芸術・文化など歴史や成り立ちに触れ、感じてもらうことで知的な好奇心をくすぐり、子供たちの心を育み、地域全体の活性化につなげていくことを目指す。

2.2.ルートテーマ

五感で「空ヲ知ル」

【 魅力で繋ぐ空知模様、五感で繋ぐ未来空知空間 / 子心創造空間 空知未来 】

誰もが海外や日本の各観光地で“忘れられない風景”や“感動的な空や夕日の記憶”を持っている。それは、訪れた地域の歴史や文化、人々の雰囲気を体で感じることで“素晴らしさを理解する心”が生まれ、込み上がる感動として感じられるものだと理解している。

きっと空知にも、歴史や文化を学び見る空、田園風景やブドウ畑から見る空、道路や川と見る空などと五感で感じることが出来る特別な空があるはず。過去と今を繋ぐ美しい大地から見る空を知り、未来へと繋がる空(心)を知る。そんな空知の空を、訪れる観光客や地域の人々、未来の子どもたちに知ってもらおう心づくりをベースとしたルート活動を行うことを目指す。

五感のイメージ

「見 　る」 風景・景観、歴史的遺産、芸術

「嗅 　ぐ」 花、ワイン、田んぼ・畑の臭い

「聞 　く」 自然の音（鳥の声、風）、地域住民の話し声

「食 　べる」 ワイン、肉、スイーツなど

「触 　れる」 体感（歴史、自転車、スカイスports、農業体験

2.3.活動キャッチフレーズ

Let's 空知 ing !!

【 レッツ・ソラッチング = 仲良くなれる魔法の言葉 】

空知 ing とは…

空知を知り、体験し、感じ、空知の未来と繋がること

空 　：空知の空、空気、雰囲気、歴史

知 　：知る、体験する、感じる、知り合う、繋がる

ing 　：動く「こと」、行動する、続ける、進行形

空知管内の地域情勢は様々で、地域が抱える課題や問題も異なる。しかし、そのような状況を超え空知地域がひとつにまとまること、地域が地域を理解し関わり続けることが、未来への自立と共生共育と繋がる空知を造ると信じている。

よって、我々は、“いつも、現在進行形で”空知の歴史や文化、地域を知り、繋がり合い続けることをモットーに「Let's 空知 ing」を合言葉として活動を続ける。



3. ルートの資源と課題

3.1. ルートの特性

空知管内 10 市 14 町で構成する当該ルートは、石狩川沿いに肥沃な平地が続く米作を中心とした農業地帯でまた、札幌と旭川の間位置し、日帰りが容易なことから、通過型の観光が主体の地域でもある。

また、資源の観点から、炭鉱遺産や廃線跡などの産業遺産、ひまわりやバラなどの花、アート、スカイスポーツ、サイクルスポーツ、食の地域特産品など、多種多様な魅力があるとともに、これらに関わる人々が空知の最大の資源であるといえる。下記に当該ルートの資源（特性）と課題を整理した。

(1) 自然資源

空知管内では、「暑寒別天売焼尻国定公園」、「富良野芦別道立自然公園」の二箇所が自然公園に指定されている。

「暑寒別天売焼尻国定公園」には、我が国でも有数の山岳性高層湿原として知られる「雨竜沼湿原」（雨竜町）があり、ラムサール条約の重要湿地の登録や、道の天然記念物にも指定されており、高山植物や湿原植物の花の季節を中心に、多くの登山客でにぎわいを見せる。「富良野芦別道立自然公園」の夕張岳（夕張市）や岨山（芦別市）は特異な地質から、ユウバリソウやキリギソウに代表される固有種や希少な植物が多く生育している。

特に夕張岳は「花の百名山」や「北海道百名山」にも選定されていることから、登山者に人気があるほか、桂沢湖（三笠市）や滝里湖（芦別市）は、ワカサギ釣りの人達でにぎわいを見せる。

また、河跡湖沼が多く残されている石狩低地帯は、シベリア等の繁殖地と日本国内の越冬地を往復するガンカモ類、ハクチョウ類の中継地として国際的にも重要であり、特に我が国で越冬するマガンの多くが中継地として利用している宮島沼（美瑛市）は、ラムサール条約の重要湿地に登録されており、マガンの渡りの時期には、地元だけでなく道内外からも観光客が観察に訪れる。このほかにも、管内には自然豊かな森林、湖沼などが広がっており、これらの場所では、自然とふれあいながら環境への理解を深めることができるよう、遊歩道やキャンプ場等が整備されている。



雨竜沼湿原



夕張岳

(2) 河川・ダム

空知は、アイヌ語の「ソーラップチ（滝下る所）」を語源とするところからも分かるとおり、石狩川・空知川を中心とした河川が地形的・歴史的に重要な地域である。

特に空知管内の 5 市 7 町が流域として位置する石狩川は、流域面積が 14,330km² で利根川に次いで全国 2 位、長さ 268km は信濃川、利根川に次いで 3 位であり、北海道遺産に選定されるなど、北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通物資輸送の道として大きな役割を担ってきた。現在は「川下り」や「河川清掃」また、子供が川で安全に遊ぶことを目的とした「子供川塾」等のイベントが実施されている。また、総貯水容量全国 4 位（427,000 千 m³）の夕張シューパロダムをはじめ、空知管内には 45 のダムがあり、主にかんがい用水を目的としたダムが多数点在する。



夕張シューパロダム

(3) 歴史資源（炭鉱歴史）

空知管内の炭鉱の歴史は、明治 12 年に幌内炭鉱（三笠市）が開鉱したことに始まる。その後、最盛期には 100 を超える炭鉱が稼働し、国内最大の産炭地として北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。しかし昭和 30 年以降、国のエネルギー政策の転換により閉山を余儀なくされ、平成 7 年 3 月の空知炭鉱（歌志内市）の閉山により坑内掘りは無くなったが、現在も 6 市町で露天掘りによる石炭産出が続いている。

また、産炭地域では、「北海道遺産」や「近代化産業遺産」に認定された炭鉱関連施設や文化等を活用した地域づくりが行われており、民主導による産炭地域の活性化策の検討や、地域資源の魅力を PR する事業が実施され、地域資源を活用した取組が活発化している。

石炭の搬出や人々の移動には主として鉄道が用いられ、結節点となった岩見沢、滝川、深川の各都市が発達した。木材を搬出した森林鉄道も含め、現在は殆どが廃線となっているが、線路跡・駅舎跡は、観光資源やサイクリングロード等としても一部活用されている。



住友赤平炭鉱立坑



石炭運搬貨車（砂川市）



田園風景



北海幹線用水路

(4) 農業

全道一（全道比約 4.5%）の作付けを誇る稲作を主体に、畑作物は水田の転作としての小麦や大豆などの生産が多い。特に大豆は全道一の作付けを誇り、小麦・そばについても道内有数の産地となっている。

また、野菜や花きは、水田農業における所得確保の手段として作付けされ、このうちトマト、はくさい、メロン、なす、ねぎ、きゅうり、かぶ、たまねぎ等が道内有数の産地となっている。

赤平市から南幌町（7市町）までの延長約 80 km におよぶ、農業専用では日本でもっとも長い「北海幹線用水路」は、空知平野へ農業用水を供給するために造られ、北海道の穀倉を支える役割を果たしており、北海道遺産にも認定されている。広大な平野に広がる水田、丘陵に広がる様々な畑、丘陵を貫く一直線の農道等は、「北海道らしい」景観として観光客にも親しまれており、後述するグリーンツーリズムや食育等にも繋がっている。

(5) 観光（レクリエーション）

空知は、ワイナリーや地元の農産物を使ったファームレストラン、グリーンツーリズムなど、道内有数の農業地帯として、農業との連携を活かした観光が進められている。

国内有数の醸造用ブドウ畑を抱え、ワイン産地として知名度が上がっている北海道において、空知は現在 6 つのワイナリーと 7 つのヴィンヤードを擁し、更に今後も増えつつある注目のエリアである。またワイン以外でも、歴史ある酒蔵、長沼町の「どぶろく特区」など、多様な酒類を生産する地域でもあり、それに関連した飲食サービス、観光商品も開発されつつある。

また、かつて日本の近代化を支えた炭鉱関連施設、広大な菜の花畑やひまわり畑などの美しい景観、数多くの温泉施設、こだわりのご当地グ



ワイナリー/サイクルツーリズム

ルメヤ、サイクリング、乗馬、ラフティング、カート、グライダー、さらにはSLの運転体験など様々なコンテンツがあり、広域的・複合的に連携することにより、観光客へより魅力的な地域としてPRできる可能性がある。

訪日外国人宿泊者数も年々増加しているが、空知は千歳空港に降り立った訪日観光客が道北、道東へアクセスする上での通過点という位置にあり、空知の観光開発ならびに空知と周辺エリアとの連携が、全道的な視点においても期待されている。



グリーンツーリズム

■グリーン・ツーリズム等の推進と農村活性化

南空知では札幌圏に近い優位性を活かして、また北空知では高速道路等アクセスの優位性を活かして、農業体験や直売所、ファームレストラン、観光農園などの日帰り型の様々な施設・取り組みが行われている。そのほか、修学旅行生の受入れ、ファームインといった滞在型の施設も増加しており、先進的な取り組みとして注目されつつあり、平成27年では、その施設数は合わせて556と全道一で、道内施設数の約2割を占めている。

(6) ハイウェイ

空知地域には2つの高速道路「道央自動車道」「深川・留萌自動車道」がある。

道央自動車道には、岩見沢から深川までインターチェンジ6カ所、サービスエリア2カ所が設置されている。中でも日本国内最北のサービスエリアであり、全国で初めて高速道路上でのUターンが可能となった砂川サービスエリアには、北海道のお土産や空知の新鮮野菜や豊富な特産品などが買える「砂川ハイウェイオアシス」が併設されている。隣接する「北海道子どもの国」は、広大な敷地に約80科255種の樹木や野草や、エゾリス、ウサギ、タヌキ、キツネなどの野生小動物もいる自然豊かな道立都市公園で、高速道路から降りずに行くこともできる。

深川留萌自動車道は、4つのインターチェンジと、1つのパーキングエリアがある。秩父別パーキングエリアには、バラの花を中心として緑や花などの自然を楽しめる野外レクリエーション施設「ローズガーデンちっぷべつ」や、「こども冒険の森公園」、秩父別町観光体験牧場「めえーめえーランド」が隣接しており、砂川ハイウェイオアシス同様、利用者はパーキングエリア内の駐車場に駐車して、そのまま徒歩で入園できる。

この通り、空知管内においては高速道路と密接に連携した施設が複数あり、また各インターチェンジと各地域との接続についても整備が進んでいる。アクセス手段としての高速道路を有効に活用することで、観光客の増加や新たな観光商品開発が考えられる。



砂川ハイウェイオアシス



アルテピアッツァ美唄

(7) 文化資源（文化・芸術）

安田侃氏が今なお創り続ける、野外彫刻美術館アルテピアッツァ美唄や、日本を代表する彫刻家流政之氏の作品が設置されている赤平市エルム高原。彫刻家・デザイナーの五十嵐威暢氏のアトリエ・ギャラリー「かぜのび」（新十津川町）など芸術作品に触れることができるほか、ベネチア・ビエンナーレやドクメンタなど世界を舞台に活躍する現代美術家の川俣正が故郷三笠市で進めるアートプロジェクト「北海道インプログレス・三笠プロジェクト」。若手アーティストをはじめ道内作家を招き炭鉱遺産とアートを融合させた「赤平アートプロジェクト」のなど、空知の風景や地域に根ざした芸術体験ができる。

(8) 食

全国ブランドとして有名な「夕張メロン」をはじめ、三笠市、奈井江、栗山町、月形町、浦臼町、雨竜町、北竜町などでメロン栽培が盛んである。北海道遺産であるジンギスカンは、滝川市、長沼町、南幌町、新十津川町の特産品であり、味付けなど羊肉をおいしく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立している。また、花見などでも定番であるジンギスカンは、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。他に、美唄市の焼き鳥や赤平市のがんがん鍋、芦別市のガタタン、歌志内市なんこ鍋など地域の特徴を生かした郷土料理が数多くある。

ワインの産地としては、国内有数の醸造用ブドウ畑を保有する浦臼町をはじめ、岩見沢市、三笠市、歌志内市、長沼町でもワイナリー・ヴィンヤードが点在している。新十津川、栗山町では日本酒の酒造メーカーがあり、「どぶろく特区」に認定された長沼町では5軒の農家がどぶろくを製造している。



ジンギスカン



夕張メロン

3.2.ルートの課題

空知地域は、かつては石炭産業とともに地域が栄えていた昭和35年には82万人を超えていたが、エネルギー施策の転換により炭鉱が閉鎖され、労働人口の減少、若者の都市部への流出、商店街や産業が衰退していくなど、国策に翻弄されてきた地域である。

平成27年の国勢調査によると全人口は30万8千人でピーク時から6割減少し、高齢化についても34.2%と全道振興局管内で上から2番目となっており、夕張市の46.4%を筆頭に、特に旧産炭地において高齢化率の高い市町が空知管内に点在している。

一方、観光面では、北海道の平成26年の観光入込客数は、札幌管内から近いためか道内で5番目（約11,654,000人）の入込客数であるが、そのほとんど約96%が日帰り観光客であり、宿泊者数では各振興局順位で最下位の結果であることから、通過型観光であることが示唆されている。

また、宿泊客室数と宿泊者数の相関関係を調べたところ、各振興局内の客室数と宿泊客数には0.98と高い相関性がある結果であった。

空知シーニックバイウェイの目的は宿泊客の増加を図ることが最終目的ではないが、シーニック活動を行う上で、その地域の特徴を理解し活動することが重要であると考えている。

4. ルートの活動体制及び方針・内容

4.1 ルート活動体制

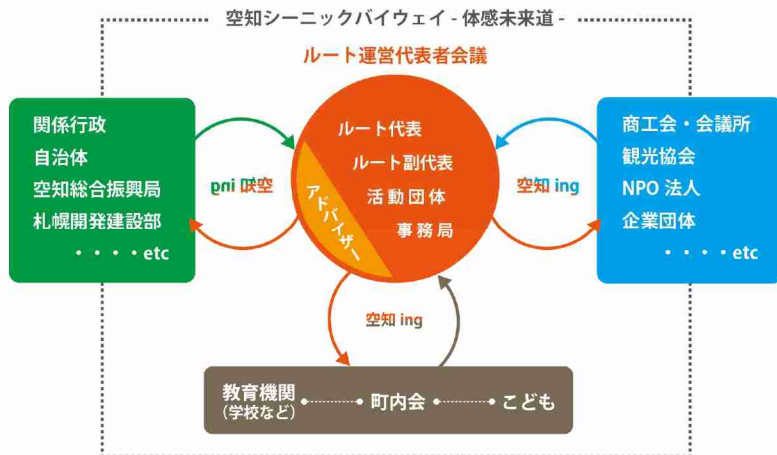
空知シーニックバイウェイの組織と体制は以下の通りである。

表 空知シーニックバイウェイ 組織表

役 職	氏名及び活動団体
代 表	工藤 克彦 (NPO 法人日本一直線道まちづくり研究会)
副 代 表	安田 光則 (そらち DE い〜ね)
副 代 表	高橋 幸博 ((株)アーチ・ヒーロー北海道、そらちバイシクルプロジェクト)
副 代 表	山崎 太地 ((有)山崎ワイナリー)
副 代 表	植村 真美 (NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団)
副 代 表	倉内 武美 ((株)宝水ワイナリー)
副 代 表	渡辺 泰弘 ((一社) 由仁町観光協会)
事務局 長	植村 正人 ((一社) 空知建設業協会)
事 務 局	川田 孝志 ((一社) 空知建設業協会)
アドバイザー	吉岡 宏高 (札幌国際大学 (国際観光学科))
アドバイザー	池田 卓矢 (ソムリエ)

■活動体制について

空知シーニックバイウェイは、ルート運営代表者会議を中心に、「自治体や空知総合振興局などの関係行政機関」、「商工会・会議所、観光協会、企業」、「教育機関、町内会・子ども」など、地域の多様な主体とゆるやかな連携体制を構築し、一緒に活動を展開していくことで、シーニックバイウェイの活動の理解者を増やし、仲間づくりを進めていく。



4.2 活動目標と内容

空知シーニックバイウェイでは、以下の内容に基づき、活動目標を定める。

(1) 活動目標

景 観	地域の歴史・営みを感じる空知 ing な景観づくり
地 域	ルーツを大切に、未来に繋ぐ空知 ing な地域づくり
観 光	暮らしに触れる、風土を学ぶ、空知 ing な観光空間づくり

(2) 活動内容

活動目標	活動内容
[景 観] 地域の歴史・営みを感じる空知ing な景観づくり	景観資源の発掘・整理 [歴史・成り立ちを大切に、景観資源を発掘]
	①ルート景観診断 ・暮らしの景観調査 ・シーニックデッキ（視点場）の設置検討 ②地域の歴史・営みを感じる景観ポイントの発信 ③景観に配慮したビューポイント案内の検討（案内サインの企画） ④道路河川清掃運動
[地 域] ルーツを大切に未来に繋ぐ空知 ing な地域づくり	空知ノ物語の企画 [ルーツを知り、物語を紡ぐ]
	①空知 SBW 広報ツールの作成・情報発信（HP・SNS等） ②ロード・地域 PR マップの作成 ・地域の歴史や文化に関する情報整理 ・地域の食や花に関する情報整理 ・地域の芸術に関する情報整理 ・地域イベントに関する情報整理 ③シーニックフォーラムの開催（地域創生フォーラム） ④道の駅と連携した地域づくり ⑤文化や歴史（炭鉱遺産等）・芸術・食と連携した地域づくり ⑥森林・農業資源を活用した教育プログラム
[観 光] 暮らしに触れる風土を学ぶ空知 ing な観光空間づくり	空知ラーニングツーリズムの展開 [暮らしと学びのツーリズム]
	①サイクルツーリズム ②ラーニングツーリズムの実施検討 ・空知ヒストリー観光の実施検討 ・ワイン街道観光の実施検討 ・食観光の実施検討 ③フラワーツーリズムの実施検討 ④各種イベントとの連携

5. ルートの活動団体

空知シーニックバイウエイの活動団体は下記の通り。参加団体の活動分野は、農・食・川・体験交流・沿道美化・地域交流・歴史遺産・観光産業・サイクル・ワイン・建設業と多岐にわたる。各団体それぞれが主軸とする活動を推進しつつ、シーニックバイウエイ北海道の三本柱である「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」の連携を意識し、空知全域で活動を展開する。さらに活動の展開にあたっては、シーニックバイウエイの加盟団体のみならず住民や関係団体、行政機関等を巻き込みながら、地域全体でのシーニックバイウエイの活動に取り組む。

表 空知シーニックバイウエイ加盟活動団体

活動団体	そらち DE い〜ね	活動分類			
1	活動概要	雄大な自然や多くの温泉施設、大都市との近接性といった空知の特色を活かし、管内で都市農村交流に取り組んでいる団体が広域的な連携を図り、体験型の都市住民とのふれあいの機会を増やすとともに、農業・農村体験を通して、空知を訪れる人に「学び」、「癒し」、「感動」を与えていく活動中です。	景観	地域	観光
	活動範囲	空知・石狩 地区	●	●	●
2	活動団体	NPO 法人日本一直線道まちづくり研究会	活動分類		
	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設指定管理業務（奈井江町体育館、プール、道の駅） ・ボランティアサポートプログラムに登録し、国道 12 号沿線の清掃活動・花植え・歩道の除雪など ・地元産特産品を使った商品の開発販売 ・ハイテクステーション化事業への取り組み (子ども向け習字教室、夏休み期間のラジオ体操実施等) ・スポーツ交流事業（サイクリング、バトミントン等） ・地域交流事業（町内施設を活用したイベント開催等） 	景観	地域	観光
	活動範囲	奈井江町	●	●	●
3	活動団体	NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団	活動分類		
	活動概要	北海道遺産に選定されている、空知産炭地域の炭鉱遺産。この地の石炭産業は、約 100 年前におこり、前半 50 年で急激に成長し、その後 50 年で急激に衰退しました。今も残る炭鉱遺産は、今日の北海道を築いた基幹産業としての歩みを語り伝えるとともに、これからの急激な人口減少・高齢化を迎える日本の明日を占う、貴重な手がかりでもあります。私たち NPO は、炭鉱遺産を活動テーマとして、空知産炭地域の再生に向けて取り組んでいます。	景観	地域	観光
	活動範囲	赤平市・芦別市・夕張・他（岩見沢市）	●	●	●

活動団体	(株)アーチ・ヒーロー北海道	活動分類		
4	<p>活動概要</p> <p>世界水準のサイクリング観光地として、空知でのサイクリングツアーやイベント、新自転車文化推進事業を行う。主にインバウンドの知見を活かし、空知のインバウンドの受入れ環境改善の事業化や市民、事業者向けの啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車を使ったまちづくり事業（グループサイクリング、サイクルステーション事業支援、サイクルラック設置、サイクリングルート作り、ホスピタリティー講座） ・自転車愛好家による道路清掃 ・空知を周遊するサイクリングイベントの企画、運営 ・自転車を使ったまちづくりの事例を学ぶ講演会、フォーラム、ワークショップの開催 ・空知での子供交通安全自転車教室の開催 ・石狩川流域圏サイクリングルートの活用を目指した走行会の開催 ・世界、日本、北海道の自転車愛好家との交流事業 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲			
	活動団体	活動分類		
5	<p>活動概要</p> <p>世界水準を目指した空知の観光ディステーションと空知ライフスタイルを示すために、「自転車」を使った空知の自然、産業、食、文化、体験のイメージとモデルを作ることを活動の趣旨とする。また空知の地域で活動する自転車愛好家、まちづくり趣向者を募り、知見の共有、活動するための場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車愛好家による道路清掃 ・空知を周遊するサイクリングイベントの企画、運営 ・自転車を使ったまちづくりの事例を学ぶ講演会、フォーラム、ワークショップの開催 ・空知での子供交通安全自転車教室の開催 ・石狩川流域圏サイクリングルートの活用を目指した走行会の開催 ・世界、日本、北海道の自転車愛好家との交流事業 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	空知地域（美唄市）		
	活動団体	活動分類		
6	<p>活動概要</p> <p>・醸造用葡萄の栽培及びワイン醸造、ワイン販売事業を通して、地域に新しい農村文化の形成に取り組む。</p>	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	三笠市		

	活動団体	(株)宝水ワイナリー	活動分類		
7	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウ栽培、醸造、ワイン販売、ソフトクリーム販売 ◇主な参加イベント平成 29 年度 (H29. 6～H30. 5) <ul style="list-style-type: none"> - JOIN ALIVE・・・7月 - 岩見沢清丘園祭・・・8月 - そらちワインピクニック・・・9月 - いわみざわ情熱フェスティバル・・・9月 - 宝水ワイナリーグランピング・・・9月 - IWAMIZAWA ドカ雪まつり・・・H30. 2月 ◇ワイナリー見学受入 一受入数：91回（前年比 131.9%） 一来訪者数：2,514人（前年比 106.6%） 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	岩見沢市			
	活動団体	(一社)由仁町観光協会	活動分類		
8	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内 ・サイクリングによる観光イベントの実施 ・特産品の製造、販売 ・町内外各種イベントへの出店 ・施設管理業務の受託（指定管理） 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	由仁町	●	●	●
	活動団体	石狩川下覧権	活動分類		
9	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩川 川下り（雨竜町江竜橋で開会式） ・砂川遊水地で水上体験学習 ・夏のタベ IN 砂川遊水地 など 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	雨竜町～砂川市、奈井江町	●	●	●
	活動団体	まちづくりを考える有志の会	活動分類		
10	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅構想に関する会議の開催（道央圏連絡道路沿いを検討） ・ドライバーの意識調査（アンケート） ・近隣「道の駅」の訪問 ・道の駅を拠点とした国道337号沿線地域との連携 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	南幌町	●	●	●
	活動団体	(株)三笠すずき農園	活動分類		
11	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・三笠市萱野地区の農業者。2019年初夏より、レストラン・宿泊・製菓より構成する農泊施設のオープンを予定している。 	景 観	地 域	観 光
	活動範囲	三笠市	●	●	●

12	活動団体	三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会	活動分類		
	活動概要	農業者・自治体・企業等から構成する協議会。三笠地域に農泊の拠点を整備し、農業体験やエコツアー等の拠点にするとともに、他の多様な地域資源とも連携することで、来訪者による地域での「滞在・時間消費」の事業化を目指します。	景観	地域	観光
	活動範囲	三笠市	●	●	●
13	活動団体	星の降る里あしべつを復活させよう実行委員会	活動分類		
	活動概要	国道 452 沿いのスターライトホテルとその運営会社を中心に、市内外の有志で集まる団体。勉強会や視察などを重ね 7/31 には火星大接近に合わせてイベント企画中。	景観	地域	観光
	活動範囲	芦別市	●	●	●
14	活動団体	国道みまもり隊岩見沢	活動分類		
	活動概要	・岩沢市中心部（国道 12 号）の清掃・草刈り・街路植樹柵へ花植等	景観	地域	観光
	活動範囲	岩見沢市	●	●	●
15	活動団体	（一社）空知建設業協会	活動分類		
	活動概要	・道の駅と連携したルート内スタンプラリーの協賛 4月～11月 ・そらちワインピクニックの協賛 9月 ・そらちワインピクニック飲食ブースの出店、空知のPR活動（空知経営研究会）9月 ・地域資源を生かした地域づくり、魅力ある観光空間づくりについて討論するフォーラムの開催 11月	景観	地域	観光
	活動範囲	空知（岩見沢市）	●	●	●

6. ルートの活動計画（案）

6.1 候補ルート申請に向けた活動経過

空知シーニックバイウエイの確立に向け、2009年アンケート形式による地域の魅力発掘調査、SBW制度や取組の周知活動、仲間づくり交流会、講師を招いた勉強会などを開催し、空知シーニックバイウエイの申請に向けた活動を進めてきた。具体的には下記の通りである。

年	月	活動内容	実施内容
2009年	—	空知の魅力発掘調査	地元おすすめ情報収集（アンケート形式）
2010年	—	地域勉強会&仲間づくり交流会	講師：支笏洞爺ニセコルート
2012年	—	地域活動	空ふわによる空知情報発信
2013年	—	地域活動	空ふわによる空知情報発信
2014年	—	地域勉強会	第1回講師：SBW支援センター
	第2回講師：萌える天北オロロンルート		
2015年	—	勉強会	推進協議会事務局（講師：和泉道計課長（当時））
		意見交換	北海道開発局 札幌開発建設部 内容：管内ルート事例とルート立ち上げ
2016年	2月	意見交換	北海道開発局 札幌開発建設部
	8月	意見交換	北海道開発局 札幌開発建設部
	10月	意見交換会	空知総合振興局
	10月	そらちSBW周知活動	各自治体役所（24市町）
	11月	地域創生フォーラムの開催	ワイン・サイクリングを題材とした広域連携
2017年	7月	意見交換	北海道開発局 札幌開発建設部
	11月	地域創生フォーラムの開催	農業による地域づくりとSBW座談会を実施
	12月	そらちSBWの周知活動	商工会議所、商工会、観光協会（24市町）
	12月	意見交換（札幌開建）	北海道開発局 札幌開発建設部
2018年	2月	第1回 そらちSBW準備委員会	各団体の活動、シーニックの立ち上げに向けて
	3月	第2回 そらちSBW準備委員会	テーマ・基本方針・活動内容に関する意見交換
	4月	そらちSBW奈井江ミーティング	空知シーニックで実現したい「こと」
	5月	第3回 そらちSBW準備委員会	ルート運営活動計画骨子（案）の検討
	6月	ルート運営代表者会議の設立	ルート運営活動計画骨子の決定



地域創生フォーラム(2017年)



第1回 そらちSBW準備委員会

6.2.今後の活動（案）

活動目標	活動内容	平成30年					平成31年							
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
地域の歴史・営みを感じる 空知 ing な景観づくり	景観資源の発掘・整理 〔歴史・成り立ちを大切に、景観資源を発掘〕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ルート景観診断	○	○	●秋	○	●冬	○	○	○	●春	○	○	●夏	○
	地域の歴史・営みを感じる景観ポイントの発信	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
	景観に配慮したビューポイント案内の検討				○	○	○	○	○	○	●			
	道路河川清掃運動										●	●		
ルーツを大切に、未来に繋ぐ 空知 ing な地域づくり	空知ノ物語の企画 〔ルーツを知り、物語を紡ぐ〕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	空知 SBW 広報ツールの作成（HP・SNS）	○	●											
	ロード・地域 PR マップ作成（文化・歴史・食・花等）	○	○	●										
	シーニックフォーラムの開催				●									
	道の駅と連携した地域づくり			○	○	●			○	○	●			
空知文化・芸術・食や農業資源を活用した地域づくり			○	○	○	○	○	○	●					
暮らしに触れる、風土を学ぶ、 空知 ing な観光空間づくり	空知ラーニングツーリズムの展開 〔暮らしと学びのツーリズム〕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	道の駅と連携したルート内スタンプラリーの協賛	○	○	●	●									
	そらちワインピクニックの協賛及びブースの出店			●										
	ラーニングツーリズムの実施検討			○	●	●		●	●	●				
	フラワーツーリズムの実施検討									●	●	●		
各地イベントでの連携	●	●	●			●	●		●	●				
会議名	会議・ルート運営など	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
空知 ing 会議	ルート運営代表者会議		●			●			●			●		
	勉強会の開催（適宜）				●				●					●
	事務担当者会議（運営会議）		●		●		●		●		●		●	

7. 指定ルートの提案に向けて

空知シーニックバイウェイでは、候補ルート登録後も、引き続き、加入団体を募集する。活動を展開しながら他分野の仲間づくりを行い。概ね、2～3年後にルート指定を目指す。

さらに、指定ルートの提案に向けては、自治体など行政機関との連携も不可欠と考える。当ルートでは、空知シーニックバイウェイ準備委員会での活動段階から、空知管内全24自治体と観光協会等を訪問し、空知におけるシーニックバイウェイ活動の周知と連携について意見交換を行っており、引き続き、管内の自治体との連携体制を構築していく。また、準備委員会からオブザーバ参画いただいている空知総合振興局においても、引き続き、ルート活動の応援者として参画いただき、オール空知で活動を展開し、指定ルートの提案に向けて、熟度を高めいく。

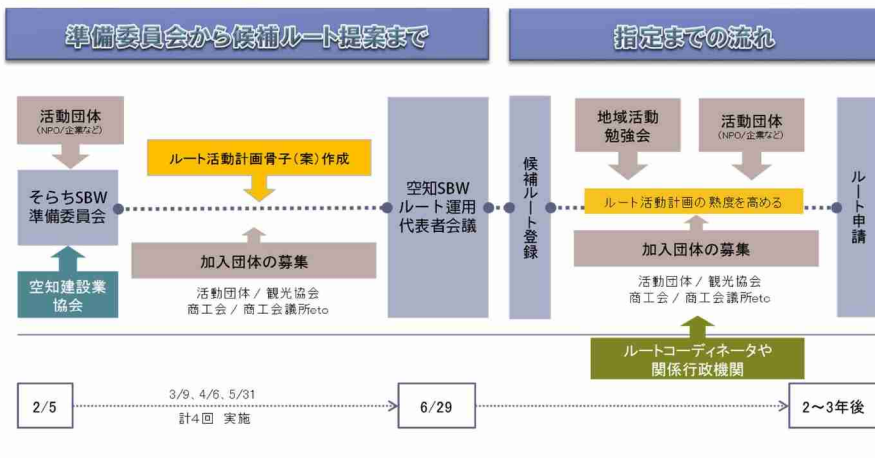


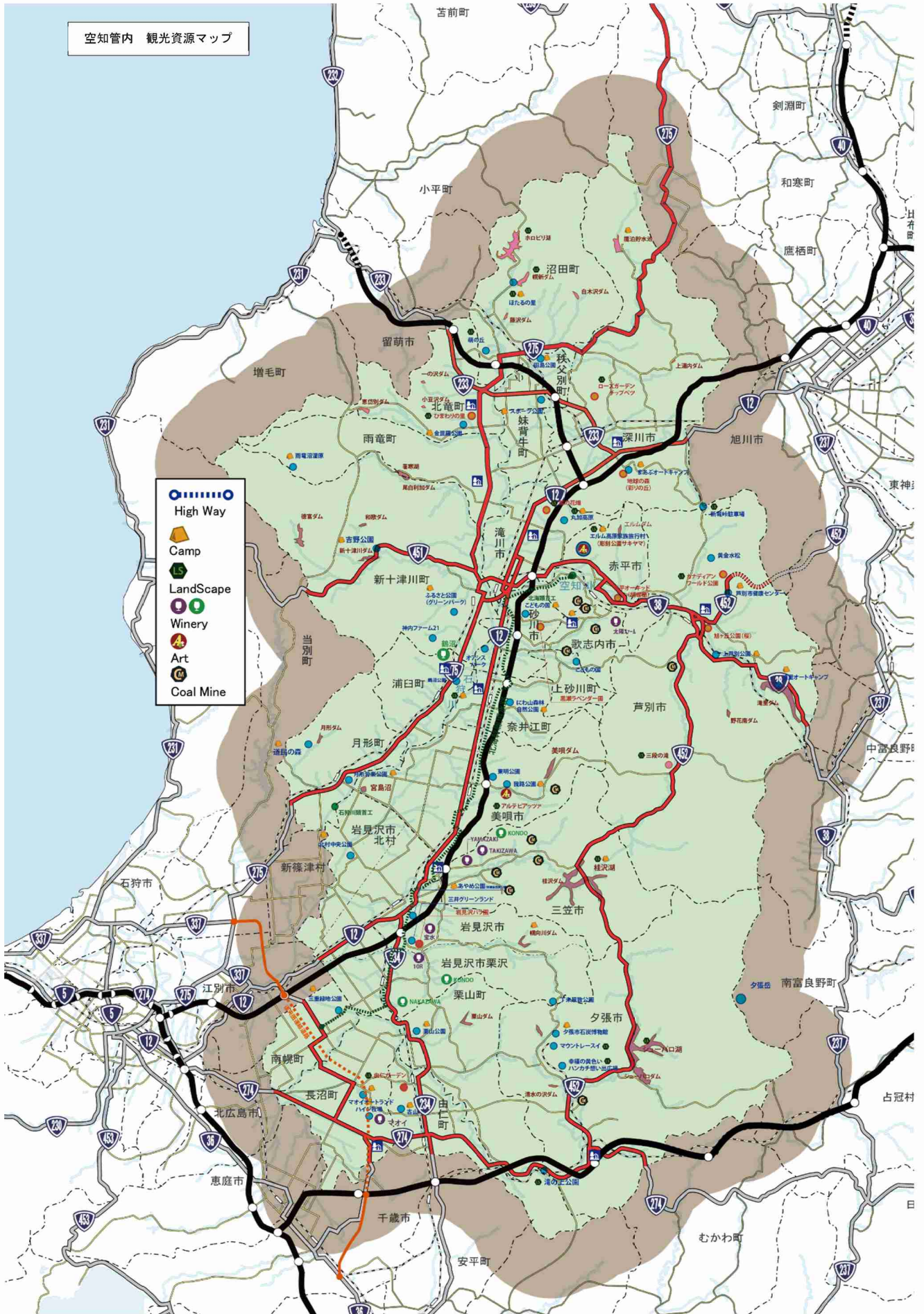
図 準備委員会から候補ルート登録・指定ルート提案までの流れ

8.写真引用先一覧

下記に、空知シーニックバイウェイルート運営活動計画骨子を作成するにあたり、引用した写真と引用先を一部示す。

表紙	表紙	表紙	表紙
			
南幌町 HP	歌志内町 HP	美瑛市 HP	月形町 HP
7 頁	7 頁	9 頁	10 頁
			
札幌開発建設部 HP	夕張市 HP	石狩川振興財団 HP	夕張市 HP
11 頁	11 頁	11 頁	12 頁
			
空知総合振興局 HP	空知総合振興局 HP	空知総合振興局 HP	栗山町 HP

空知管内 観光資源マップ



シーニックバイウェイ北海道推進協議会
会長 岩田 圭剛 殿

シーニックバイウェイ北海道 ルート審査委員会

委員長 小林 英嗣

ルート審査委員会 意見

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。また、その目標に向け各地・各種の人や地域資源のマネジメント方針を明確化し、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆空知シーニックバイウェイ―体感未来道―に対する意見

雄大な石狩川、一直線に伸びた国道 12 号線・農業景観・炭鉱遺跡など空知の歴史を物語る景観資源は豊富であり、独特の価値を有し、優位性のあるものである。

10市14町という広大なエリアでの連携性を保つため、自治体との関係性を築き、また、サブエリアの集合体として共通の活動理念や目標をもち、連携しあうような連携を進め、ルート活動を推進していく体制を築くことが必要。

また、「町内会」、「こどもたち」、「教育機関」など地域の多様な主体との連携や、さらには若者や技術者集団の参画を期待し、テーマや戦略ごとの専門推進体制を充実させていくことが重要である。

平成30年8月23日

ルート審査委員会

ルート審査委員会の審査結果

(1) シーニックバイウェイ候補ルート

空知シーニックバイウェイ体感未来道-

表 1-1 【審査結果】

視 点 委 員	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推 薦 可 否
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	-	○	-	○	①自然景観や農業景観をベースにした、さまざまツーリズムの拠点と拠点的活動が広大なルート内に点在し、いかに連携・共働して、全国・世界（特にアジア）に通用しうる地域価値を共創するかが重要。 ②グローバルに評価されつつある、アートや食と地域経済活動と結びつける、今日的なルート目標と運営を期待。	○
B	○	○	○	○	-	①雄大な石狩川、一直線に伸びた国道12号線・農業景観・炭鉱遺跡など空知の歴史を物語る景観資源は豊富であり、独特の価値を有する。 ②様々な産業(石炭、農業)の栄枯衰退が織り成す歴史と施設配置が魅力的である。	○
C	○	○	○	○	-	①北海道各地の景観資源や自然資源は何処をとっても日本の他の国内地域、アジアの観光地と比べ、ユニークで旅情を誘発するに十分な優位性のあるものである。	○
D	○	-	-	○	○	①様々な資源に触れ合う機会があり、景観も画一的でなく、訪れる人を楽しませる要素が多く含まれている。 ②歴史資源(炭鉱歴史)は当該ルート特有のものであり、後世に残していくべき産業遺産である。 ③ワイナリーや農業との連携を活かした食、農業体験など様々なレクリエーションは体験型観光空間づくりには欠かせない要素である。また、最近注目されているサイクリングで各地を巡り、景観を楽しむには適している。	○
E	○	-	○	-	-	①景観について、ポテンシャルとしては高いものがある。	○

表 1-2 【付帯意見】

- ・サブエリアの集合体としてのルート活動を期待。
- ・過去の経緯を引きずらない連携活動を期待
- ・24にのぼる自治体との連携・協働というチャレンジングな目標に期待。
- ・町内会、こどもたち、教育機関の活動がキー。さらには、若者や技術者集団のシーニック活動への参画を期待。
- ・テーマや戦略ごとの専門推進体制の充実が必要。
- ・ルート認定が最終目標ではなく、継続的な努力を続けることを期待。
- ・行政との更なる関係性の深掘りを期待。
- ・関係者で議論を進め、シーニックバイウェイルートとしての理念や目標を定め、各地・各種の人や資源をどのようにマネージメントして、目標に向けて活動していくかを、もう少し明らかにすることが必要。

平成30年11月5日
シーニックバイウエイ北海道推進協議会

シーニックバイウエイ候補ルートの登録について（案）

- シーニックバイウエイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウエイ北海道実施要綱第18条第一項及び第二項の規定により、次のとおりシーニックバイウエイ候補ルートの登録を行う。

ルート名：空知シーニックバイウエイ一体感未来道—

関係市町村：夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町（24市町村）

提案者：空知シーニックバイウエイルート運営代表者会議

なお、上記登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会 意見(案)

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。また、その目標に向け各地・各種の人や地域資源のマネジメント方針を明確化し、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆空知シーニックバイウェイ—体感未来道—に対する意見

雄大な石狩川、一直線に伸びた国道 12 号線・農業景観・炭鉱遺跡など空知の歴史を物語る景観資源は豊富であり、独特の価値を有し、優位性のあるものである。

10市14町という広大なエリアでの連携性を保つため、自治体との関係性を築き、また、サブエリアの集合体として共通の活動理念や目標をもち、連携しあうような連携を進め、ルート活動を推進していく体制を築くことが必要。

また、「町内会」、「こどもたち」、「教育機関」など地域の多様な主体との連携や、さらには若者や技術者集団の参画を期待し、テーマや戦略ごとの専門推進体制を充実させていくことが重要である。